



kkj

一般社団法人 環境共生住宅推進協議会

〒162-0825 東京都新宿区神楽坂 1-15 神楽坂一丁目ビル 4 階

TEL 03-6265-3242 FAX 03-6265-3243

E-mail info@kkj.or.jp URL <http://www.kkj.or.jp/>



提言

「住まい・まち・暮らしの環境共生」

2012 年 11 月

一般社団法人 環境共生住宅推進協議会

環境共生住宅は、「地球環境の保全」「周辺環境との親和」「居住環境の健康・快適性」を総合的に実現する住まい・まちづくりを目指し、1992 年に産官学共同の環境共生住宅研究会によって提唱されました。その後、環境共生住宅推進会議を経て 1997 年に発足した環境共生住宅推進協議会は、「環境共生住宅宣言」を 1997 年 11 月に発表し、以来その普及・推進に取り組んできました。

その間、地球温暖化対策が国内外の優先課題となり、暮らしにおける「省エネ」「低炭素化」が近年強く意識されるようになりました。そして、2011 年 3 月 11 日の東日本大震災を契機に、災害に強い安全性と省エネ・低炭素化が両立する住まい・まちづくり、そして人々の絆を育む暮らしのあり方等が切実な課題として顕在化しました。

環境共生住宅推進協議会は、これらの新たな社会的課題に対応するため、「住まい・まち・暮らしの環境共生」をここに提言します。

提 言

環境と共生する社会に向け、安全で豊かな生活を支え、人々の交流を促し、「心のよりどころ」となる住まいと周辺環境を形成することが必要である。

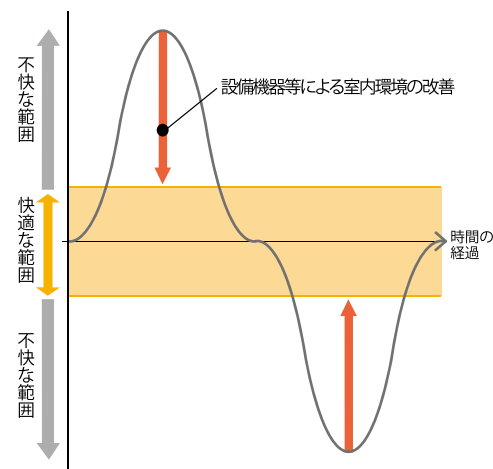
これからの住まい・まちづくりにおいては、自然、風土、文化などの周辺環境や地域資源を活かし、これらと調和する暮らしを実現する環境共生の取り組みを推進すべきである。

1. 環境と共生する社会の住まい・まち・暮らし

地球や地域の環境保全に資するエネルギー・資源等の利用を、地域特性に従って適切に工夫します。そして、周辺環境と調和し、安全で健康・快適な暮らしができる住まい・まちづくりを目指します。

■ 従来型の設備機器等に依存した室内環境づくり

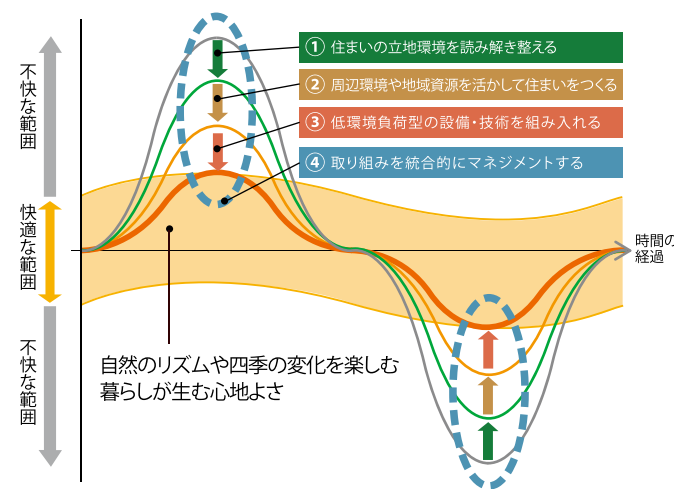
住まいを取り巻く環境は、室内外ともに常に変化しています。それに対して安定した室内温熱環境を得るために、従来は系統エネルギーに依存する便利で手軽な設備機器に頼りがちでした。外界からの影響を和らげ、室内の快適性を高めるためには、建物の躯体性能を向上させることよりも、設備機器を付加あるいは改善するほうが取り組みやすかったからです。



従来型の室内環境づくりのイメージ

■ 環境共生型の周辺環境を活かした居住環境づくり

環境共生の暮らしでは、自然のリズムや四季の変化を感じ楽しむことが大切です。もとより、私たちが「心地よい」と感じる範囲は決して一定ではなく、季節とともに緩やかな変化を見せます。こうした「心地よさ」は「心の満足感」につながります。そしてさらに、私たちの住まい・まちが「心のよりどころ」となるためには、太陽、風、緑などの周辺環境に加え、文化やコミュニティを含む地域資源との関わりが不可欠です。「住まい・まち・暮らしの環境共生」はこのような視点に立った居住環境づくりを目指します。



環境共生型の居住環境づくりのイメージ

2. 「提言」がめざす環境共生の重点的な取り組み

自然、風土、文化などの周辺環境や地域資源を活かす環境共生の取り組みによって、災害時や日々の暮らしにおける安全・安心に留意するとともに、心のよりどころとなる住まい・まち・暮らしの実現を目指します。

① 住まいの立地環境を読み解き整えます

まず、読み解いた立地環境の特徴や資源を活かす手立てを探ります。そして、まちなみ景観や微気候(敷地内外の気温・湿度・風・日射等)を整え、隣人との交流を促し、多様な緑や生き物と触れ合うことができるように工夫します。



② 周辺環境や地域資源を活かして住まいをつくります

次に、立地環境や住み手の特徴に応じた建物配置や形状、間取り、開口部のあり方など、住まいづくりの基本に取り組みます。その際、耐震性、耐久性、断熱性、バリアフリー等、安全に暮らすための住宅性能を確保しながら、地域の文化や伝統にも学び、これらを取り込む工夫を凝らします。



③ 低環境負荷型の設備・技術を組み入れます

①、②に取り組んだ上で、外部エネルギーで稼働する設備や技術を必要に応じて組み入れ、快適な居住環境を実現します。その際、高効率な冷暖房機器や給湯機器、太陽光発電システムなど、居住環境の向上と環境負荷の低減を両立できる技術やエネルギーの利用に留意します。



④ 取り組みを統合的にマネジメントします

①、②、③の総合的な取り組みに従って計画・設計します。そして、HEMS (Home Energy Management System)を含む住まいのスマート化技術等を活用し、立地環境や生活シーンの変化にも応答できる住まいやまちの統合的なマネジメントによって、環境共生の暮らしを持続的に支援します。

